

國事新報

八 全國ナ五海軍區ニ分ナ毎海軍

渠アリ。而後高木廣シ乾燥地二箇所ノ内一個ハ當時尚小築

船廐アリセルホルダ、オレスター、ロリエント、ロナユフオ

道路修補助費

會議語費

郡都會費

卷之三

會場費

常山集

旅綱
易
費興

醫手當

修繕費

四
料

卷之三

以下次號)

十四年十月
公輯印漫失

人質ニ取リ公証
ニヨ右村戸長役

モノトシ他へ
宗旨告白候事

芳川顯正

THE JOURNAL OF CLIMATE

上原川本
賢德正親惟

可吉岩崎
兒田崎
春聯之
琳紀

大中半
島村田
久亘隆
成時時

片壠田
山江樹
道元亂
堅明祚

西島
田波
敏正
宜忠

小島津
安理實
千里

卷之三

橋本勝
激野七郎
上月豊
伊

全二見清六

橋本順積
畠野七郎
上月豊蔵

州ノ造船製造兵局ハ東洋第一ノ名ニ反カス實ニ盛大
ナルモノナリ此外南京、杭州等一造兵局アリ
以上各國ノ造船事業ナ一見シテ再ビ我日本帝國ノ海
軍造船所ナ頗ミンニヘ讀者モ亦必ズ我輩ト共ニ其結
構ノ未ダ十分ナラズ其守衛ノ未ダ堅固ナラズ其場所
モ亦一所ニ限リテ未ダ十分ノ用ナ達スルニ足ラザル
「チ感スルナルベシ故ニ我輩ハ六艦隊七十餘艘ノ新
軍艦製造ノ職ト共ニ海軍造船所増築ノ議ナ起サント
欲スルナリ則ナ横須賀造船所ナ廣メア更ニ其準備ナ
十分ナラシムルノヨナラズ他ニ又一地ナトシテ新造
船所ヲ築造セントチ欲スルナリ風説ニ從ヘバ我政府
ハ備後三原地方ニ鎮守府ナ設置スルノ議アル久シ
ト我輩ハ三原ノ地勢果シテ造船所ニ適スルヤ否ヤナ
知ル者ニアラザルナ以テ地ナトスルハ當局者ノ任ニ
讓リ唯日本第一勝形ノ地ニ早ク新造船所ノ築造アラ
ソ「チ希望スル者ナリ

（畢）

雜 報

○御送葬順路 故三品博厚親王の御葬儀ハ来る廿二
日と前號より記せしダ細都合より繰上どあり昨日地
鎮祭を執行され本日午前九時御入棺明廿日午前八時
御棺祭あり同廿分前一番翠柝二聲よて御供廻同九時
二番翠柝三聲御供廻同九時卅分三番翠柝四聲よて御
出棺御道筋ハ同邸より右へ聖坂を下り右へ左へ三田
四國町通育種場角右へ左へ松本町右へ左へ芝園橋を
渡り右へ芝公園地通り新橋を渡り左へ内幸町通り
右へ外務省前通り櫻田門を入り左へ堀端通り雛子橋
門を出左へ飯田町下通飯田橋を渡り右へ船河原橋を
渡り左へ江戸川橋右へ左へ水道町通り右へ吾羽町通
り豊島岡へ御着棺い都合あり猶御行列の次第ハ次號
又記すへし

○大山陸軍卿 同官ふハ明後廿一日より三週間の休
暇を請ひ下野國駒原の温泉に入浴せトるゝ由

○後藤板垣両君の一行 自由黨總理板垣後藤は岡君
は舊暦十二月二十七日恙あく佛京巴梨ふ着せらき暫
時彼地へ滞在大統領ヘも謁見の手筈ある由夫れより
歐洲大陸周遊の後ち英國へ渡航し來五月中旬頃迄は
同國滞留の心算ありと云ふ

○近衛少佐 近衛歩兵第二聯隊第二大隊長近藤少佐
ハ去る十六日由山學敎官を命ぜたり

○杉浦信五 鐵道局東京詔杉工部少書記官ハ久々
病氣に處発生不相叶遂に去る十六日死去されたり

○醫員會議 本日木挽町明治會堂於て萬木齊博士
督大監と隈川宗悦君が會主となり會私に拘ナキ醫員
百餘名集會するゝ由右は芝公園地内に萬葉洞院又稱

雜
華

州ノ造船製造兵局ハ東洋第一ノ名ニ反カス實ニ盛大
ナルモノナリ此外南京、杭州等一造兵局アリ
以上各國ノ造船事業ナ一見シテ再ビ我日本帝國ノ海
軍造船所ナ願ミンニヘ讀者モ亦必ズ我輩ト共ニ其結
構ノ未ダ十分ナラズ其守衛ノ未ダ堅固ナラズ其場所
モ亦一所ニ限リテ未ダ十分ノ用ナ達スルニ足ザル
コナ感スルナルベシ故ニ我輩ハ六艦隊七十餘艘ノ新
軍艦製造ノ職ト共ニ海軍造船所増築ノ議チ起サント
欲スルナリ則ナ横須賀造船所ナ廣メア更ニ其準備ナ
十分ナラシムルノヨナラズ他ニ又一地ナトシテ新造
船所ヲ築造セントコナ欲スルナリ風説ニ從ヘハ我政府
ハ備後三原地方ニ鎮守府ナ設置スルノ議アル久シ
ト我輩ハ三原ノ地勢果シテ造船所ニ適スルヤ否ヤナ
知ル者ニアラザルニ以テ地ナトスルハ當局者ノ任ニ
讓リ唯日本第一勝形ノ地ニ早ク新造船所ノ築造アラ
ソコナ希望スル者ナリ

○朝鮮志士集會 朝鮮國に於て日本黨の首領ともいふへき閔泳翌李祖淵の両人ヶ過日清國上海に赴きたるよし前號より記載せしダ如何ある急用の出來しふや目下我東京より滞留の金玉均氏の許へ右両人より電報を以て上海より來會すべく様申越されば金氏より來る二十一日出帆の郵船にて同地へ赴くよし

○砲兵會議 陸軍砲兵少佐花形勝則君よりは此程砲兵會議々案掛を命ぜられ又陸軍歩兵大佐川上操六、同乃木希典、同砲兵少佐平賀國八の三君より歩兵彈薬携帶具様式取調の件より付砲兵會議第二部議員を各命ぜられより

○月給増額 陸軍大中少尉ハ文官より比較して官等ハ

○學生募集 戸山學校ハ射的体操
年九月頃より學生を募集せらるゝ由
全國步兵隊附は士官下士を採まる

○陸軍下士官 明治十年より十五
陸軍の歩騎砲工輜重五兵科の下士
されし者は四百六十六名滿期の上
下士ハ九百十三名勳章を受領せら
五十九名よして後備軍士官適任證
士官又昇進せられし者ハ昨十五年
名なる由と兵事新聞に見也

○出張 兵庫縣和田岬の火薬倉庫
るふ付右検査として工兵第一方面
官を出張せしめらるゝと云ふ

○傳話機試験 此程辰ノロ陸軍電
の爲め又用ふる日光反射傳話機を

しての事ありと閉塞性難病に癡覺せると云ふ
ムへを閔泳翌李祖淵の両人ヶ遇日清國上海に起きた
るよしの前號より記載せしケ如何ある急用の出來しふ
や目下我東京より滞留の金玉均氏の許へ右両人より電
報を以て上海より來會すべく様申越されば金氏より電
二十一日出帆の郵船にて同地へ赴くよし

○砲兵會議 陸軍砲兵少佐花形勝則君よりは此程砲兵
會議々案掛を命ぜられ又陸軍歩兵大佐川上操六、同
乃木希典、同砲兵少佐平賀國八の三君より歩兵彈薬
携帶具様式取調の件より付砲兵會議第二部議員を各命
せられより

○砲兵會議 陸軍砲兵少佐花形勝則君よりは此程砲兵
會議々案掛を命ぜられ又陸軍歩兵大佐川上操六、同
乃木希典、同砲兵少佐平賀國八の三君より歩兵彈薬
携帶具様式取調の件より付砲兵會議第二部議員を各命
せられより

○月給増額 陸軍大中少尉の文官より比較して官等より
同しきも給料の寡額あるより製服の料より生ず
る事ともあるやふて自今給額を増加せんと此程より
其筋にて協議中ありといふ

○文官採用細則 此程太政官より陸軍滿期下士官採
用規則を發佈せられたるふ付陸軍省にて之を實施
するに必要ある細則を取調中の由又右規則發表後既
より諸官廳より滿期士官を採用いたしき旨陸軍省へ
照會せる由なるが彼の細則出來の後ち試験の上あふ
では任官せられまじと云ふ

○合課 府廳の公債課へ庶務課へ合併され同課中へ
更ふ公債掛とを置かるゝよし

○府廳兵事課達 府廳兵事課長より各區役所へ今般
左の通と達せられより

第二豫備徵兵異動ノ義ハ是迄博居死沒他管出入及
ヒ廢疾離縁等御届出相成居候處該徵兵服役中常備
年期間ニ在リ父隱居シ戸主トナリ又ハ隱居セサル
モ父五十歳ヲ超過シ又ハ官吏教導職試補及ヒ官公
立學校教員トナル等總ア國民軍ノ外免役相當スル
者ハ令第三十五條交互該當ノ例ニ依リ該徵兵名簿
ハ除名シ又常備年期ヲ過キ三十一歳ニ至迄前條國
民軍ノ外免役ニ當ル異動ヲ生スルモ名簿ハ除名セ
ス備考欄内ニ記シ置ク筈ニ付此旨御了知自今異動
ヲ生スル者ハ悉皆御届相成度命ヲ奉シ此段通達ニ
及ヒ候又同様豫備兵及ヒ歸休召集ノ節若シ三里以上ノ地へ召集可相成者有之候ハ、通行免狀往復帳
費文字ノ肩へ居住町村ヨリ入營地迄ノ里程ヲ駐在
官於テ記入同致書ニ付去ル十四年當廳乙第九十七
號達シヨ基ニ其支給スヘキ金額ヲ該發狀中旅費ト
アレ下へ御書入一時繰替量其金額ハ四月六日迄ニ
請求方御上申相成慶此段通達ニ及ヒ候也

○准備米 北海道の准備米の自今函館五千石札幌三千石根室二万石と定められし自此頃太政大臣より右
三縣へ達せられたり

○學生募集 戸山學校ハ射的体操外着守等にて七十二名各昇等を行
年九月頃より學生を募集せらるゝ由
全國步兵隊附に士官下士を採用する
陸軍の歩騎砲工輜重五兵科の下士
されし者は四百六十六名滿期の上
下士ハ九百十三名勳章を受領せら
五十九名よりして後備軍士官適任證
士官より昇進せられし者は昨十五年
名なる由と兵事新聞に見也

○出張 兵庫縣和田岬の火薬倉庫
るふ付右検査として工兵第一方面
官を出張せしめらるゝと云ふ

○傳話機試験 此程辰ノ口陸軍電
の爲め用ふる日光反射傳話機を
横を皇城潮見橋より品川第三の臺
し處ろ陸地の傳話は滞あく通せし
分あらむして三十英里以外ふ至り
爲め反射を障害せふるゝに依り猶
其試験中などといふ

○種馬廻送 陸軍々馬局にては先
られしアラビヤ種の牡馬一頭を宮
を岩手縣下牧場へ何れも種馬とし
申付百夫々へ運せられたり
といふ

○歸休兵 此程陸軍省より各鎮台
の中にて行狀方正ふして技藝よ熟
し者歩兵一中隊に四名、砲工兵は
兵ハ一小隊ふ一名の割を以て新兵
申付百夫々へ運せられたり

○日進艦 昨年來朝鮮國開港場保
碇泊せし日進艦は昨十八日品海ヘ
○兵艦購買 支那政府にて頃頼
るは隠れあひとあるが近頃又々新
耳島國の會社より購求せんとて當
共未だ彼我の約束の調はざる由北
スム見へより

○山林學會 一昨十七日ハ神田錦
林學會を開かれたり同日出席は諸
六の國君を始め山林學校教員若干
ありて中々盛んありしよし

○器械採借 山口縣下長州佐浪
會社々長秋良貞臣氏より撫田區畫
機械器械(但し晴雨計外二品共)採